

令和7年度 第2回桐生市総合戦略推進委員会 議事要旨

○日 時 令和7年10月1日（水）午後6時30分～午後8時15分
○場 所 桐生商工会議所ケービックホール
○出席者 20名

【委員】13名

委員長：群馬大学 副学長・大学院理工学府 教授	板橋 英之
副委員長：きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長	近藤 圭子
委員：桐生商工会議所 会頭	糸山 和久
桐生市農業委員会 委員	山形 栄子
桐生広域森林組合 参事	栗原 和人
群馬県桐生みどり振興局 局長	服部 裕
桐生信用金庫 総合企画部長兼秘書室長	増山 騒介
桐生公共職業安定所 所長	中野 直美
(株)桐生タイムス社 事業推進室長	小澤 義明
桐生市区長連絡協議会 区長	朝倉 富美夫
N P O 法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
桐生青年会議所 理事長	新井 慎吾
群馬大学 学生	鳥海 真歩
<欠席者>	
桐生市社会福祉協議会 常務理事	大木 茂雄
桐生市P T A連絡協議会 会長	稻垣 真介

【桐生市】7名

市長	荒木 恵司
副市長	西條 敦史
桐生市共創企画部長	三田 善之
桐生市共創企画部企画課長	大澤 善康
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長	曾我 延博
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当	井田 圭祐
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当	金子 裕平

○報道関係 1社

○傍聴者 なし

○会議内容

1 開会 [開始：午後6時30分]

- ・事務局から、15名中13名の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 挨拶

- ・荒木市長から挨拶。

3 議 題

(1) 第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度評価検証について

- ・資料1から3に基づき、事務局から説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員長	まず、基本目標1について意見等はあるか。
委員	桐ペイは地域の活性化につながっていると思う。桐ペイの使えるところ、使えないところの分け方は。桐ペイの目的は。
事務局 (課長)	現状、大型店舗も使えるようになっている。目的としては地域経済の好循環を最大の目標と掲げている。現在加盟店が800店舗超える状況にあり、制度の趣旨に沿って順調に推移している。
委員	桐ペイは桐生を活性化させるためであるが、大型店舗で利用すると東京の事業所に税金が流れてしまうのはいかがか。
副市長	委員のご意見はよくわかる。一方、大型店舗でも利用できるようにといった市民の利便性についてのご意見もある。そのような中、登録店舗を増やし、桐生市内の好循環は生まれているものと考えており、大型店舗でも利用できるが、中小の企業においてもいきわたっていると思う。 100円商店街 in 桐生にあわせて桐ペイの事業を実施しており、特に中小の企業に好循環をもたらしていると考えている。
委員	ぜひ桐生市内のまちなかで桐ペイを使ってもらえるとありがたい。桐生の人たちが桐生のまちでお金を使って循環させるような考え方にしていかないとと思う。
市長	地元のお店でお金を使い、地域内だけで循環しようということが桐ペイのスタートであった。市民の方から大型店でも使わせてほしいといった要望が非常に多かった。そういうことで大型店を入れたが、イベントによっては大型店では使えないようして、地元の商店街で買い物をしてもらうようにしている。 本来の桐ペイの目的である地域内の好循環、地域だけで使える桐ペイといったことを基本的なスタンスとして進めるが、市民の方々からの大型店でも一部使えるようにしてほしいとの声が非常に多かったことから、併用という形で行っている。
副市長	大事なのは本来の趣旨である、市内で買い物をしようという意識のきっかけづくりの意味合いもある。利便性を持たせ、桐ペイを使い市内で買い物をする意識付けをすれば、市内のお店の良いものが分かってもらえ、現金でも買い物をしてもらえる。桐ペイを使った好循環だけではなく、意識改革を市民の皆様に促していきたいと考えている。 また、桐生・みどり未来創生会議においては、地域を拡大した方がいいのではないかといった議論も行っている。利便性と本来の趣旨とのせめぎあいの中で、皆様からご理解いただけるところを今後も探していくたいと思う。
委員	地域通貨であることを市民にPRし、もっと桐生のまちにお金が落ちるような方向にしていただければと思う。
委員長	地域の資源を生かした雇用を創出するということで、桐生市の資源は高校生、大学生が多く、それを使って雇用を創出する。高校生を対象にした創業の企画ということで、例えば、ビジネスマッチングの中で高校生の探求活動の発表の場にする。また、大学生も起業を希望する学生が増えているので、ビジネスマ

	マッチングの場で発表させ企業の意見をもらう。そういう活動を通じて新たな雇用を創出することにつながると思うのでそういうところに予算をつけてもらえばと思う。
市長	ビジネスマッチングには既に高校生に入っていただき、色々な企業の方々との面談があり、良い方向に進んでいけるのではないかと思う。桐生の高校では、桐生高校を例に挙げれば、生徒数 1,000 人のうち市内の子が 300 人、市外の子が 700 人。樹徳中や桐生大学附属中学校も 3 分の 1 が市内、3 分の 2 が市外である。せっかく桐生の学校に他地域から学びに来ている学生に、桐生の良さ、桐生の企業やものづくりを学んでもらう、触れてもらうような仕組みを新たに考えていく必要があると考えている。
事務局 (課長)	取り組みをご紹介できればと思う。高校生が関わるものとして、今年度から、商工会議所さんで始められた未来創造塾でも清桜高校と連携をしている。また、4 年前から行っているイノベーション EXPO では市のシティブランディング事業と連携し、昨年度の EXPO の中では清桜高校の学生さんがプランを発表したりというところで、市も連携しながら支援をさせていただいている。
委員長	今年から群馬イノベーションアワードの午前中に、県内の高校生で探求 EXPO を行う。探究活動においてビジネスプランに係る高校生を一堂に集めてポスターセッションのようなものを計画している。そういう桐生版のようなものがあると面白いと思う。
副委員長	林業の後継者の育成について、地域おこし協力隊の活用を考えてみてはいかがか。
市長	昨日、桐生市林政コーディネーターから提言書を提出していただいた。その中に地域おこし協力隊の活用も示されていた。これから精査し、行っていければと思う。桐生市には森林が豊かであり、新たに桐生市林政コーディネーターを置かせていただいたので、色々な提案をいただき、林業の活性化、雇用も含めて進めていければと思う。
委員	桐生市林政コーディネーターを置いていただき、市の方も林業に対し目を向けてもらえたのかなと追い風に思っている。山の仕事は複雑で、プロフェッショナルな人材を地域おこし協力隊に加え、アドバイザーを市においていただき、協力しながらもっと前に進めるのかなと思うのでよろしくお願ひします。
委員	間接的になるが、雇用の創出ということで、市でも設備投資があると思うので、PFI の活用をいただきたい。PFI を活用することで、運営も民間が行い、そこでも雇用につながり、プラットフォームに地元の企業も入っていただき、活性化になる。また民間も入ることでより良いサービスになると思う。
委員	数値目標の有効求人倍率が「1.0 倍」とある。実際人手不足の状況にあるが、この数字はどこから出ているのか。
事務局 (課長)	有効求人倍率は桐生公共職業安定所の公表数値を参照している。
委員長	次に、基本目標 2 について意見等はあるか。
委員	空き家対策について、移住の受け皿として取り組みの一定の成果があると記載されているが、全体の活用できる空き家に対して割合は少ないのかと思う。他の地域での取り組みを調べてみたところ、様々な人材の交流の場として活用されてたり、定額で住み放題サービスを提供している企業があり、そこと連

	携して成果を上げている自治体もある。移住になるとハードルが高い場合もあるので、関係人口の創出まで広げ、幅広い視点から取り組みを検討してもらえるといいと思う。
委員長	次に、基本目標3について意見等はあるか。
委員	学生の目線としては、若い世代に向けた取り組みがあまりないのかなと思う。ぜひ踏み込んで、結婚・妊娠・出産といったところで、桐生市で結婚するメリットや子供を産むメリットを高校生、大学生に紹介してもらうと桐生に関わる取り組みになるかと思う。
副市長	<p>桐生市は、虐待を受けている子や貧困家庭に対して手を差し伸べることについては進んでいる。屋内遊技場では、保育士等の資格を持っている職員がいて、親子の様子を見て、おかしいなと感じることがあればアプローチをするようにしている。</p> <p>桐生市ではこういったことをするといったものが一枚で分かるようなものができていないといったことが、委員のご指摘のようなことがあると思う。ひとつひとつを別々に周知しているため、周知の方法等を検討していきたい。</p> <p>若いお母さんの支援について、キッズバレイさんで紹介できればお願いしたい。</p>
委員	お母さんとは変わってしまうが、若者の切り口だと、困ってから相談するのでは遅い。困る前から地域につながりがある状態が大事だと思う。学校の中ではカウンセラーや先生に相談できたり、変化に気づいてもらったりする。その過程が終わってしまうと、変化に気づいてくれる大人が周りにいるかがすごく大事だと思う。そのため、桐生市でも学習支援事業を始めて、週に1回、生活が厳しいご家庭の中学生を対象に、学校の教員経験者や大学生が勉強を教える授業を始めている。食事提供もしております、ちょっと困っていることを話せるような関係性作りをキッズバレイで受託し始めている。想定よりも登録してくれる家庭が多く、ユースセンターという形で若者が気軽に地域と繋がる場所を作り始めている。その地域と関わる楽しさを感じてくれると、先ほどあった起業、あとはボランティア、まちづくりとか、そういったところに目が向き、地域の担い手や色々な活動のプレーヤーになっていってくれる。そういう入口が増え安定的に若者が行きやすい場所で色々な展開がされるといいのではないかと思う。
委員	PRに関して、桐生市の発信する情報は紙が多く、今の若者はデジタル世代のため、そういったところに予算をかけてもいいのではないかと思う。
市長	PRの大切さということで、メディアプロモーション戦略監としてBSニッポンの芦沢さんに関わっていただいている。それぞれの年代ごとの情報発信の仕方についてアドバイスをいただいているところである。それから若者目線でということでは、以前群馬大学の学生さんが桐生の魅力を若者目線で発信してくれるインフルエンサー事業をやっていた。今では学生×桐生つながるプロジェクトということで31名の学生さんが色々な桐生のお店や企業を回ったりして、それぞれの良さを若者目線で発信してくれている。過日はスバル桐生店で、桐生アロハの取材にも学生×桐生つながるプロジェクトのメンバーが行ってくれた。情報発信の大切さというのは考えているので、色々と皆様方からご意見をいただく中で、上手に情報発信できるように努めていきたい。

委員	婚活について、商工会議所の青年部で行っている。両毛広域で実施しているので、行政の方でも PR をお願いしたい。
委員長	次に、基本目標 4 について意見等はあるか。
委員	重伝建について、電柱地中化や石畳風の整備により、とてもよくなり、新しい桐生の顔がひとつ増えたと思う。多くの人に知ってもらい、訪れてもらう必要があると思う。地域の会合の中で、まち歩きマップを作りたいと地元の方から出ている。振興局としても支援したいと思う。市としても PR について積極的な取り組みをお願いしたい。
副委員長	重伝建のマップをファッショントウンの委員会でまちなかマップを作っており、とても好評なため参考にしていただければと思う。
委員	重伝建について、食べ歩きできるようなお店が少ない。また、トイレの充実が足りない。来てもらった人にお金を落としてもらえるようにしてもらえばと思う。
市長	<p>市の方でも協議をしており、食べ歩きができるような形をつくらないと輝きが増さないのではないかと、重伝建の課題としてとらえているので取り組んでまいりたい。トイレについては、東久方に観光トイレが新しくできたので変わってきたかと思う。周知が足りないかなというところがあるので、看板設置も含めて考えていきたい。</p> <p>重伝建地区の今後の観光のあり方として、文化観光という形で取り組んでいければと思う。重伝建はストーリーがあるため、物語で創出する観光として、新たな観光のスタイルとして重伝建では取り組んでまいりたい。</p>
委員	インバウンドを引き寄せるため、食べ歩きができることがポイントだと思う。また、桐生は織物の町であり、外国人の人は着物を着るといったことも好きなので、活用できるものは沢山ある。インバウンドを活用し、さらに飲食や文化財をみたり、着物を着たりと色々活用し、海外にも PR していくことが必要かと思う。
市長	インバウンドとは違うかもしれないが、外国人の方がビジネスで日本に訪れて、首都圏に来た際、1週間のうちに1日ないし2日、自由に過ごす時間があるらしい。これは、文科省からの情報であるが、そのターゲットを桐生市の方にどうですかという提案があった。土曜、日曜、祝日は、リュックを背負った町歩きの方や家族連れが増えてきているが、課題は平日である。その平日の部分で、日本にビジネスで来ている外国人の方々が、1日、2日あれば桐生は100km圏内なので日帰りもできるし、泊まることもできる。立地的に有利なところもあるので、そういうところもターゲットに絞っていきたいかなと思っている。
委員長	先ほどデジタルといった部分で、スマホでみられるとか、多言語でみられる、その近くにいくと解説が聞けるみたいなのがデジタル化になるとすごくいい。また、外国人は文化にかなり興味を持っている人が多い。先ほど市長が言われた文化観光は多分すごい桐生でいいなと思うので、外国人に受けるようにうまく発信すると、来てくれる外国人も増えるんじゃないかなというふうに思う。
委員	学生にデジタルのマップの作成に協力してほしいという依頼が多い。それぞれの分野に特化したマップが増えるが、結局どれをみたらいいのかわからず、グーグルマップを見てしまうので、包括的な幅広いマップができたらいいのか

	なと思う。デジタルのマップを学生の方でも進めているので、期待してもらえたと思う。
副委員長	外国人の方はスマートフォンを見てお店を探すが、中国人の方が街を歩いたときにお店が載っていなかった。自分の店で情報を出さないと載らない。そのようなこともあります、商業高校のビジネス研究部が商店街のお店の情報をだすといったことを部活の中で動き始めている。6丁目、5丁目くらいまでお店のアンケートをとっている。ただなかなか予算がないというようなことだったのでも、そういうところも支援していただけるといいのかなと思う。
副市長	私も市役所に勤め、色々な部署でマップを作っている。紙媒体だと、これもあれもとなり、情報が多くわかりづらくなる。デジタルでないと包括的なマップは難しいと分かっているが、そこで止まってしまっているところがある。若い方のご意見を聞きながら、今後担当課と相談し、研究させていただきたい。
副委員長	紙のマップを欲しがる人はまだ多い。外から来る人で、デジタルに弱い人もいて、案内をしてると紙を必要とする人はいる。全体においてはデジタルではあるが、やはり紙もまだ必要だということがあるので、同時にやらないといけないと思っている。
委員	教授と群大生がいるので、聞きたいが、群大生はどこで食事をしているのか。
委員	学生は学食を使うことが多い。また、コンビニで済ませることも多い。あとは地域の周りの「すぎうら」さんや「ひょうたんじやや」さん、「レンガ」さんなど、その辺に行く人もいる。どうしても授業と授業の間でご飯を食べるっていうことで、おにぎりを持ってくる人もいたり、食べないという人もいる。
委員長	今6号館を改修しており、美喜仁さんと連携して、地域の飲食店の方がお弁当を届けてくれるというシステムをうまくやろうかなと思っている。学生の場合時間がないということがあり、コンビニで全部済ましてしまう。地域の美味しいお店を知らない。時間がないんだったら、向こうから持ってきてもらおうというシステムを作っているところ。本当は町に出てもらうのが一番いいので、夜町に出てもらうシステムができるかなと思っている。
委員	健康寿命の数字について、桐生市はなぜ短命なのか。
事務局 (課長)	健康寿命であるので、日常生活を通常どおりおくれる年齢になる。
委員	今年、桐生青年会議所で関東地区大会を招致し、観光マップを作製した。作ってる過程を見ている中で、自分だったらここを入れたいといったことがあり、先ほどのお話の中で色々団体がマップを作るというのは、それぞれのおすすめがあるのだと思う。市としてベースのフォーマット、例えばトイレや駐車場はみんなの載せると思うので、そういう基準的なものを作ってもらって、あとはインフルエンサーの人や個人のSNS、企業、団体がそれを使って、発信してもらい、十人十色のマップができるいいのではないか。デジタルの中でも、ベースのものを行政でみんなが使えるようなプラットフォームを作ってもらうと、みんなが使いやすい基準的なものを用意してもらうといいと思う。
委員長	次に、基本目標5について意見等はあるか。
委員	ツクルンきりゅうについて、この項目にあったことがちょっと意外であった。デジタルクリエイティブ人材育成という目的があるとは思うが、子供たちが自分の可能性に気づくきっかけにもなるといった取り組みだと思うので、いず

	れ特色ある教育の取り組みになるのかなという印象を持った。
副委員長	桐ペイについて、加盟店さん側のお話であるが、PayPay など色々と電子決済があるが、そちらを使われると手数料を払う必要がある。桐ペイは手数料がない。だからお店にしてみると桐ペイを使ってもらうと、とてもありがたいというお話を聞いているので、ぜひ街中では桐ペイを使ってもらえると。
委員	農業に関して、市民の方や農業に関係ない方に対し、農業ってどのようなものか、今どういう状態であるかとか、そのような情報発信をしたいが、なかなかできていない。市民の方に、農業をやってる方のところに行って農業はどんなふうに行われているかを、皆さんに知ってもらいたいと思う。
委員長	群馬大学理工学部の中に食品工学プログラムができた。そこで農業の関係者を大学にお招きして学生に向けて講義してもらっている。群大の卒業生が起業して、吉岡町で農業を始めたっていうことが新聞に出ていたが、そのようなことをこれからやりたいという学生が多分増えてくる。そのときにぜひ連携させていただいて、桐生市で農業をやるときには見学させてもらったり体験させてもらったり、一緒にやっていければ、すごくいいものになるのではないかと思う。鳥獣害被害に關係しても、それを研究している教員もいるし、どうやつたら畠を守るかといった仕組みを研究している教員もいるので、連携させてもらえるといいと思う。
委員	有効求人倍率について、今年度は目標 1.00 ということで、4 月から 5 月ぐらいまで 1 倍を超えていたが、今は 1 倍を割っている。人手不足であるけれども、1 倍を割っているというのは、ハローワークに求人をいただいているというところなのかなと。ハローワークでは、求人の支援で各企業さんを回っているので、求人の確保をしていきたいと思う。皆様も各企業さんに人手が足りないと話があればハローワークに行ってみればと、ぜひおすすめしていただければと思う。
委員	スマートフォンについて、川内の方とお話しする中でキャリアによって全然繋がらないので不便だからツールとしてスマートフォンはなかなか使いづらいとの声があった。行政においてそういうことに対する働きかけをするとか、調査をする機会といったことはあるのか。
事務局 (課長)	地域情報化という事業の中で総務省の通信局の調査依頼があり、定期的に不感エリアの調査をしている。実態調査の方もしております、その中で優先順位付けをして、国の方にアンテナの整備等の要望をしており、個別の対応をしているケースもある。

(2) 桐生市過疎地域持続的発展計画の令和 6 年度評価検証について

- ・資料 4 に基づき、事務局から説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	今、小中学校の合併など色々と進んでいる。空き家などを売却して、若い人に低価格で住んでもらおうといった新たな部署をつくり、活性化を助長していくといったことをしてはどうかと、民間の社長としては思うが。人口の増加、若い人の増加につながると思うので、そのようなことを長期で考えてもらえばと思う。
副市長	そのことについては、財政も厳しい中、市において新しい部署設置などについ

	ても、現在研究中である。すぐできるかは明言できないが、そういうことについても着目をして、遊休資産を売却する。また、自主財源確保のために、どのようにふるさと納税を拡大していくか。この 2 点についてはしっかり考えていかなければならぬと話しており、今研究しているところなのでご理解いただければと思う。
委員	猿川温泉のことについて、知らなかつた。もうちょっと PR してもいいのかなと思う。 また、球都桐生については、市の予算は使っていないというが、寄附金を市に入れて使っているということか。
市長	寄附金を一度桐生市の財源として入れて、球都桐生のために使っている。
副市長	猿川温泉については水沼温泉センターで使っている。猿川温泉という言葉で PR するか、もしくは水沼温泉センターとして PR するかは、ホットランドさんが運営をしているので、今後お話しさせていただければと思う。
委員	本当の温泉とは思っていなかつた。新しくなり行つたが、効能が書いてあつたり、美人の湯だとか、猿川温泉をうまく使えば、もっとリトリートとして、より上くなるのではないかと思う。
副市長	温泉の効能などは入るところに掲示してあつたと思うが、そういったことがうまく伝わっていないことを、ホットランドさんにお伝えいたしたい。

4 その他

- ・事務局から、次回の開催予定について事務連絡。

5 閉会 [終了 : 午後 8 時 15 分]